

執筆者 住中 光夫
システムリサーチ&
コンサルティング株式会社
代表取締役



マイクロソフト社のセミナーでは、多数の講師陣の中から3回連続で受講者より1の評価を受けている。企業研修、書籍の執筆など、Officeソフトにかかわる多方面で活躍中。www.suminaka.comも要チェック!

4号連続
特別企画

知って納得! 第2回

Office活用セミナー

マイクロソフト社セミナーで大人気! Office指南のカリスマ・住中先生が、パソコンをビジネスに活かすための心構えをわかりやすく解説する!!

ビジネスリテラシーの向上が

Officeソフト活用の秘訣

エクセルで音やビデオを利用する

エクスセルで、セルの数字をクリックすると、音や音声が発生される。エクスセルで作成された見積書のある商品名をクリックすると、その商品のビデオが再生される。やったことはありますか? 何千何万件のデータを自由に条件を付けて抽出したり、またデータ分析を行なう。やったことはありますか?

これらの機能は、エクスセル5.0、つまりWindows3.1の時代、実は8年前もからありました。しかし、ほとんどの人がその機能を知りません。なぜでしょうか。

MS-DOS時代のLotus1.2.3などの機能を10階建てのビルとすれば、エクスセルなどは50階建てのビルです。表計算機能は、30階位までで、30階台はマルチメディア機能、40階以上は、データベース機能です。しかしほとんどの人は、5階位までの表計算機能しか使っていない。

それらの機能を利用しなかったのは、知識がなかったからではなく、「利用する必要性」がなかったからです。

この「利用する必要性」が重要なのです。この必要性は、いくら操作を学んでも出てきません。ビジネス活動をより深く、そして情報活用をより進めることによつてこの必要性が出てきます。

ビジネスリテラシーの強化

「情報リテラシー」という言葉が、約10年前からさかんに言われたしました。多くの人は驚いてパソコンの操作を習い、ワープロや表計算のソフトを学びました。しかし、その結果は先の例のように5階位までしか利用されませんでした。

これは、パソコンの操作「情報リテラシー」と勘違いをしたことが原因です。「リテラシー」とは、本来文字の読み書き能力のことです。文字の読み書きができれば、本が書けるかというこ

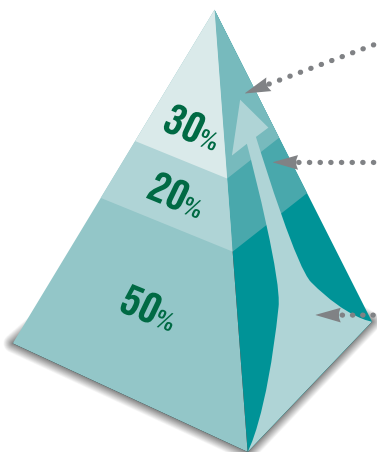
それはできないと言われるでしょう。

「情報リテラシー」は、「デジタル情報の使いこなし能力」と定義すると、よくわかります。そしてその中身は左図のようにつに分けられます。

「コンピュータリテラシー」がパソコン操作能力です。しかしこれは左図のように2割の割合のもので、いちばん重要なのは、「ビジネスリテラシー」です。こ

情報リテラシーの3つの力

「ビジネスリテラシー」とは、仕事の基本知識や応用知識のことです。これらのアナログな知識があって、はじめて情報リテラシーは強くなります。そして、それらの実践の武器がOfficeソフトです。



コミュニケーションリテラシー

プレゼンテーション、発表・提案説得の知識や技術がある
会議、討論や対人折衝の知識や技術がある

コンピュータリテラシー

パソコンがさわれる
電子メールができる
表計算・ワープロソフトが使える

ビジネスリテラシー

ビジネスルールや業界ルールの知識や技術がある
現業の業務知識がある
経験と勘がある
報告書や企画書を文書化する知識や技術がある
情報加工、データ分析の知識や技術がある

の「ビジネスリテラシー」こそ仕事の能力です。この力を強化することがOfficeソフトをうまく使うコツです。エクセルのセルの数字の説明を音声で上司に伝えたいという気持ちがある、音声の利用を生みます。何をやりたいかがあり、そしてどのように操作するのがあります。アナログな毎日の仕事の強化が、Officeソフトをより力強い武器にするのです。